大学･高専機能強化支援事業（支援１：学部再編等による特定成長分野への転換等に係る支援）
実施状況報告書

選定年度	令和6年度	学校コード	F126310107626	設置等組織名	情報学部（情報学科）、環境サステナビリティ学部（環境サステナビリティ学科）
大学名	龍谷大学	設置区分	私立		
学校種	大学	都道府県	京都	事業計画名	龍谷大学「情報学部」及び「環境サステナビリティ学部」設置計画

1.年度別の計画及び取組状況

年度別の事業計画と取組状況、自己評価を記載してください。
当初計画から変更又は追加した取組は赤字で記載し、計画変更の承認を受けた計画については、末尾に承認日を赤字で記載してください。
計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある等、自己評価が下位2つの場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

事業期間	事業計画	取組状況	自己評価、課題（理由）とその対応
令和6年度	1-①　令和6年8月～令和7年3月　教育内容充実・構想の具体化のための他大学等への視察（情報学部・環境サステナビリティ学部） 1-②　令和6年8月～令和7年3月　構想の具体化のためのコンサル支援（情報学部・環境サステナビリティ学部） 1-③　令和6年8月～令和7年3月　構想の具体化のための社会動向等調査の実施（情報学部・環境サステナビリティ学部）	1-①　令和7年2月　教育内容充実・構想の具体化のための他大学等への視察（情報学部・環境サステナビリティ学部） 1-②　令和6年9月～令和6年12月　構想の具体化のためのコンサル支援や外部調査等の実施（情報学部・環境サステナビリティ学部）　※令和6年10月4日 計画変更承認通知 【改組内容】 ・令和6年 環境サステナビリティ学部環境サステナビリティ学科について、入学定員を190人から130人に変更して検討中	令和6年度自己評価　【３】計画を十分に実施している。
令和7年度	1-④　令和7年4月～令和8年3月　教育内容充実・構想の具体化のための他大学等への視察（情報学部・環境サステナビリティ学部） 1-⑤　令和7年4月～令和8年3月　構想の具体化のためのコンサル支援（情報学部・環境サステナビリティ学部） 1-⑥　令和7年9月～令和8年3月　令和8年4月の設置届出を見据えた学生確保（人材需要）に係るニーズ調査の実施（情報学部・環境サステナビリティ学部） 1-⑦　令和7年9月～令和8年3月　新学部の認知度・訴求力向上のための広報活動実施（情報学部・環境サステナビリティ学部） ）	1-④　令和7年4月～令和8年3月　教育内容充実・構想の具体化のための他大学等への視察（情報学部・環境サステナビリティ学部） 1-⑤　令和7年4月～令和8年3月　構想の具体化のためのコンサル支援（情報学部・環境サステナビリティ学部） 1-⑥　令和7年9月～令和8年3月　令和8年4月の設置届出を見据えた学生確保（人材需要）に係るニーズ調査の実施（情報学部・環境サステナビリティ学部） 1-⑦　令和7年9月～令和8年1月　新学部の認知度・訴求力向上のための広報活動実施（情報学部・環境サステナビリティ学部） ）	令和7年度自己評価　【３】計画を十分に実施している。
令和8年度	1-⑧　令和8年4月　　令和8年4月の設置届出を行うためのコンサル支援（情報学部・環境サステナビリティ学部） 1-⑨　令和8年4月　　新学部の認知度・訴求力向上のための広報活動実施（情報学部・環境サステナビリティ学部		令和8年度自己評価　リストから選択してください。
令和9年度			令和9年度自己評価　リストから選択してください。
令和10年度			令和10年度自己評価　リストから選択してください。
令和11年度			令和11年度自己評価　リストから選択してください。
令和12年度			令和12年度自己評価　リストから選択してください。
令和13年度			令和13年度自己評価　リストから選択してください。
令和14年度			令和14年度自己評価　リストから選択してください。
令和15年度			令和15年度自己評価　リストから選択してください。
認可申請 又は届出	令和8年4月　情報学部及び環境サステナビリティ学部　設置届出予定		
定員減又は 学部等の廃止	令和6年4月　社会学部既設学科（学生募集停止）を基礎とする総合社会学科の設置届出（これにより108人減員）（入学定員450名、編入学定員10人、社会学・社会福祉学関係） 令和7年4月　社会学部108人減員予定（同上） 令和7年4月　先端理工学部知能情報メディア課程学生募集停止の報告予定（入学定員103名、編入学定員2人、工学関係） 令和7年4月　先端理工学部環境科学課程学生募集停止の報告予定（入学定員88名、編入学定員2人、工学関係） 令和8年4月　先端理工学部知能情報メディア課程103人減員に係る届出予定（同上） 令和8年4月　先端理工学部環境科学課程88人減員に係る届出予定（同上） 令和9年4月　先端理工学部知能情報メディア課程103人減員予定（同上） 令和9年4月　先端理工学部環境科学課程88人減員予定（同上）	令和6年4月　既設学科（学生募集停止）を基礎とする総合社会学科の設置届出（これにより108人減員）（入学定員450名、編入学定員10人、社会学・社会福祉学関係） 令和7年4月　社会学部108人減員（同上） 令和7年4月　先端理工学部知能情報メディア課程学生募集停止に係る報告（入学定員103名、編入学定員2人、工学関係） 令和7年4月　先端理工学部環境科学課程学生募集停止に係る報告（入学定員88名、編入学定員2人、工学関係）	

フォローアップ対象年度	令和7年度	大学名	能谷大学

２.申請資格の確認

ⅰ） 学生募集停止中の大学
ⅱ） 学校教育法第109条の規定に基づき文部科学大臣の認証を受けた者による直近の評価の結果、「不適合」の判定を受けている大学
ⅲ） 「私立大学等経常費補助金」において、定員の充足状況に係る基準以外の事由により、前年度に不交付又は減額の措置を受けた大学
ⅳ） 設置計画履行状況等調査において、「指摘事項（法令違反）」が付されている大学
ⅴ） 大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準（平成15年文部科学省告示第45号）第２条第１号又は第２号のいずれかに該当する者が設置する大学

上記項目の申請資格の状況について、プルダウンで選択してください。（プルダウンの選択肢：すべての項目に該当していない、右の○の項目に該当している）

申請資格の状況	ⅰ）	ⅱ）	ⅲ）	ⅳ）	ⅴ）
すべての項目に該当していない					

３.申請要件の取組状況

① 高等教育の修学支援新制度において、大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第８号）に基づき、財務状況や収容定員充足率が適正であることを含めた要件を満たすことの確認を受けた大学であること。なお、新設予定の大学で、応募時点において、高等教育の修学支援新制度における要件確認の対象に該当しないものは、本要件は適用されない。

② 十分な学生確保の見通しを備えた計画となっていること。

③ 産業界を含む社会のニーズ等を踏まえ、学修目標の具体化、体系的な教育カリキュラムの編成及び大学での学修に必要な資質・能力等を評価する入学者選抜が適切に実施され、そのための体制を構築する計画となっていること。（その際、国際的な質保証の枠組みを活用するなど出口における質保証にも十分留意することが重要。

④ 特定成長分野の人材を育成するための戦略、適切な管理・教育体制や教育研究環境の整備を図る計画となっていること。

⑤ 計画の対象となる学部等において、実務経験のある教員等による授業科目を配置する計画となっていること。

⑥ 特定成長分野に係る学部の設置等（学部若しくは学科の設置又は収容定員の増加）による組織の変更を伴う学部再編等の計画であること。

⑦-1 社会において具体的な人材ニーズが現に存在する、又は、その十分な見通しのある分野に係る学部等の設置等に取り組む計画であること。

⑦-2 学部又は学科の設置を行う場合、地域における特定成長分野の人材を必要としている複数の企業等と設置構想に関する事前協議を行う計画であること。

⑧ 入学定員が20名以上増加する計画であること。

⑨ 事業計画の選定があった日から４年を経過する日を含む年度の末日までに、計画の対象となる学部等の設置等を行うことを目指す計画であること。（本事業の申請時に既に設置認可申請又は届出を行っている場合を除く。）

⑩ 大学の総収容定員充足率（在籍学生数の収容定員に対する割合）について、計画の対象となる学部等の設置等に係る設置認可申請又は届出までに80%を満たす計画であること。

⑪ フェーズ３の助成期間終了時までに、大学全体の外部資金獲得額を申請時点の平均（過去５年間の中央値３年分の平均）に本事業による支援額の2.5%を上乗せした水準以上とする計画であること。

⑫ 計画の対象となる学部又は学科において、自大学以外の機関との連携を通じた教育体制の整備と教育の実施及び多様な入学者の確保に向けた取組を行う計画であること。

⑬ 選定された大学は、公募要領に定める申請要件を満たす質の高い教育等に向けた計画の具体化に努めるとともに、その進捗報告を行うこと。また、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構法第十六条の三に規定する助成業務の実施に関する方針（令和５年４月13日文部科学大臣認可）六（２）⑦に基づき機構が実施する会議に参加すること。

⑭ 文部科学大臣から国際卓越研究大学として認定を受け、支援を受けている大学でないこと。

上記項目の①～⑭の申請要件について、　令和7年度　の取組の状況についてプルダウンで選択してください。（プルダウンの選択肢：すべての項目が要件を満たしている、右の○の項目の要件を満たしていない）

申請要件の状況	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦-1	⑦-2	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬
すべての項目が要件を満たしている														

①～⑬の要件を満たしていない又は対象ではない項目がある場合、左欄に該当する申請要件を選択し、右欄に課題（理由）とその対応について記載してください。

項目	課題（理由）

⑭については、現在の状況をプルダウンより選択してください。

申請要件⑭について	現在の状況
⑭文部科学大臣から国際卓越研究大学として認定を受け、支援を受けている大学でないこと。	認定を受けておらず申請する意向もない

４.審査要項における確認項目の計画及び取組状況

令和7年度 の取組実績を記載し、申請時に選択した項目にチェックを入れた計画を記載してください。取組実績は会社名や大学名、定量的なデータ等を示し具体的に記載してください。検討中であっても状況を記載してください。
計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

【A：連携を通じた教育体制の整備と実施】（連携開設科目等に限らない）

■ チェック　a.企業や自治体と連携した科目（PBL等）の整備・実施
■ チェック　b.関連分野に強みを持つ地域の他大学と連携した科目の整備・実施
□ チェック　c.関連分野に強みを持つ海外大学との連携（連携した科目や交換留学プログラムの整備・実施等）

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
既に、データサイエンス学部を設置している大学との連携体制を構築する。それらの大学の事例を参考としつつ、本学情報学部における実践的な演習の展開について検討する。また、本学既設の先端理工学部及び農学部で実施している「アグリDX人材育成事業」（文部科学省の大学改革推進等補助金（デジタル活用高度専門人材育成事業）「デジタルと専門分野の掛け合わせによる産業ＤＸを引き入る 高度専門人材育成事業」採択事業）における成果や課題、また具体的なデータ等を同大とも共有し、双方の教育内容の充実につなげる。 多様な入学者の確保にあたっては、社会人学生への対応として、LMSの効率的な利用を図り、講義のオンデマンド教材およびオンライン小テストによる学習状況の把握、オンライン授業科目（高度メディア利用授業）を開設するなどを計画している。（情報学部） 環境やサステナビリティについては、多岐にわたる学問分野・テーマであるため、多様な主体との共創が肝要である。そこで、個別具体の課題に対応した学修プログラム（科目パッケージ）を設ける計画である。このような観点から、本学の教学資源として不足のある分野においては、他機関との連携を計画中である。具体的には近隣大学との連携を通じて分野横断の教育研究を進めたり、プロジェクト研究や学外実習などで滋賀県中小企業団体中央会、REC会員企業、（公財）大学コンソーシアム京都、（一社）環びわ湖大学・地域コンソーシアムとの連携を計画している。 多様な入学者の確保にあたっては、一般入学選抜試験において理系型入試及び文系型入試を導入し、必要に応じてリメディアル教育を施すことにより、理系・文系を問わずコース選択可能とする他、入学選抜試験においてプレゼンテーションなどを課して学生の主体的活動姿勢を評価する総合型選抜入試や女子学生特別枠を導入する。また、近隣の高等学校との高大連携プログラムを通じて探求学習の面白さや大学での学びの魅力を伝え、意欲的な入学者の確保に努める計画である。（環境サステナビリティ学部）	情報学部では、今後の教育・研究の高度化および実践的な学びの充実を目指し、データサイエンス学部を設置している他大学への訪問を実施した。訪問・意見交換を実施し、PBL科目の設計、実データを活用した演習、初年次教育から専門教育への接続方法等に関する知見の収集を進めた。これらの知見に基づき、低年次から研究や課題解決型学修に接続する実践型演習科目を体系的に配置することとした。また、複数データを利活用し社会課題の解決をめざす株式会社アークエッジ・スペースとの包括連携協定を締結し、同社と連携した教育研究や人材育成、ならびに社会課題の解決と持続可能な社会の実現に向けて具体化を進めている。 さらに、多様な入学者の確保にあたっては、実践データサイエンス専攻において理系型入試と文系型入試の双方を実施することとしており、理数系の素養を有する受験生に加え、社会課題や経営・政策等に関心を持つ文系的背景を有する受験生も受け入れる体制を整備している。 環境サステナビリティ学部では、今後の教育・研究の高度化および多様な視点を獲得できる学びの充実を目指し、環境学部を設置している他大学への訪問を実施した。訪問・意見交換を行い、実践的な実習科目の設計、大学間連携によるプログラムの提供に関する知見の収集を進めた。 さらに、サステナビリティに注力する企業や自治体への訪問を行い、連携・共創に向けた取組みの検討を進めており、本学の教学資源で不足している面についての補強策を講じている。 また、多様な入学者の確保にあたっては、全ての入試区分において、文系型・理系型の入試を設け、全ての学生が自らの得意な科目を利用して入試に挑むことができる柔軟な入試形態を導入する。総合型選抜入試では、環境サステナビリティ学部の学びへの興味関心の度や、サステナビリティに関する社会の動向への理解度を見るために、小論文を課し、受験生の論理的思考力や文章表現力等を重視する体制を整えている。 高大連携事業の一環である模擬授業なども積極的に実施し、環境サステナビリティ学部での学びの面白さや魅力を伝え、意欲的な入学者の確保に努めることとしている。	

【B：多様な入学者の確保に向けた取組】

■ チェック　a.入学者選抜における科目の見直し
■ チェック　b.女子学生の確保（志願者数増）に向けた取組
■ チェック　c.地域の初等中等教育段階の学校との連携（出張授業の実施等）
■ チェック　d.社会人学生の受入れ強化に向けた取組（リカレント・リスキリングへの対応）
■ チェック　e.留学生の受入れ強化に向けた取組

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
a.能谷大学先端理工学部の情報系の入試では、3教科(数学・理科・外国語)としているが、情報学部の入試では、2教科(数学・外国語)とすることを想定している。また、プログラム課題や実習レポートを活用した総合型選抜入試枠の設置を検討する。（情報学部） b.理系女子学生確保のために、女子学生を対象とした大学生活体験・説明会の開催、能谷大学先端理工学部に在籍する女子学生の学びやキャリアに着眼した広報媒体（動画など）の制作を行う。（情報学部） c.これまでの高大連携事業の発展として、高校生が所有するノートPC等を利用した実習を含む高大連携授業の拡充を検討する。（情報学部） d.模擬講義動画を制作し、教育プログラムの広報に努め、オンライン授業を中心とした講義および土曜日実施の演習による履修証明プログラムの開発を行う予定である。（情報学部） a. 入学者選抜において、理系型および文系型入試を設け、受験科目として数学IIIを課さない入試形態を導入する。また、昨今のAI技術の利用を想定して国語を重視した受験形態も設ける予定である。大学での学びの根幹をなす受験生の興味関心や主体性を評価するため、受験生自ら所行うプレゼンテーション等を通して受験生のSDGsに関する主体的な取り組みを丁寧に評価する総合型選抜入試を実施予定である。（環境サステナビリティ学部） b. 女子学生には理科科目として生物選択者が多く、数学III選択者が比較的少ないという調査結果を踏まえ、a.に記載の通り、数IIIを必要としない受験形態を導入する。加えて、女子学生特別枠の設置を検討している。これまで本学への進学実績が高い近隣の高等学校を中心としてa.に記載の入試形態の導入を含めて個別に説明を行うことを計画している。（環境サステナビリティ学部） c. 能谷大学付属平安高等学校や京滋地域の高等学校・小中学校との間で模擬講義や探求型学習の実施について協力をする予定である。（環境サステナビリティ学部） d.サステナビリティ分野では時代とともに社会に必要とされる能力も変化すると考えられることから社会人向けのリカレント/リスキリング教育プログラムの提供を計画している。（環境サステナビリティ学部） e.留学生の受け入れを促進するため、留学生向け奨学金制度や学生寮への優先入居制度を設けるとともに外国人留学生入学試験を設定することを計画している。（環境サステナビリティ学部）	［情報学部］ a.情報学部では、一般選抜入試(前期)(中期)において、数学を必須とし、外国語又は理科で判定を行う高得点２科目方式の導入する。 b. 女子学生への広報を目的として、設置予定の越田キャンパスのみならず、深草キャンパスにおいても2026年3月にオープンキャンパスを実施した。 c. これまでの高大連携事業を発展させる形で、高校生が所有するノートPC等を活用した実習を含む高大連携授業の拡充を検討している。 d. 模擬講義動画の制作を通じて教育プログラムの広報に努めるとともに、オンライン授業を中心とした講義および土曜日実施の演習による履修証明プログラムの開発を検討している。 ［環境サステナビリティ学部］ a. 環境サステナビリティ学部では、全ての入試区分において、文系型・理系型の入試を設ける。そのため、全ての学生が自らの得意な科目を利用して入試に挑むことができる柔軟な入試形態を導入する。総合型選抜入試では、小論文を課し、受験生の論理的思考力や文章表現力等を重視する。 b. aでの実績同様に、数学Ⅲを課さない入試形態を含め、柔軟な入試形態を設ける。このことにより、女子学生の確保（志願者数増）に向けた取組としている。また、近隣の高等学校だけでなく、環境サステナビリティ学部の学びに近い学科やコースを持つ高等学校に個別に訪問することを予定している。 c. 能谷大学付属平安高等学校や京滋地域の高等学校においては、これまで同様に、高大連携事業の一環として模擬講義や探究型学習の実施を行う。 d. 大学院検討と連携し、リカレント／リスキリング教育プログラムの提供を検討している。サステナビリティを推進する企業と連携し、を結び、プログラム内容の充実などについて検討する予定である。 e. 外国人留学生入学試験を設定する。また、外国人留学生学費援助奨学金や外国人（留学生）特別奨学金などの、本学が従来より設けている奨学金制度を適応するとともに、留学生宿舎についても入試要項や合格通知にて案内する。	

大学名	龍谷大学

１.本事業対象となる学部等の状況

＜合計＞

大区分	小区分	項目	単位	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度	R24年度
	事業計画に定める定員	入学定員	人				260															
		編入学定員	人				5															
学生の入学・在籍状況	春季入学	入学定員	人	-	-																	
		入学者数	人	-	-																	
		女子学生数	人	-	-																	
		社会人学生数	人	-	-																	
		留学生数	人	-	-																	
	その他の学期	入学定員	人	-	-																	
		入学者数	人	-	-																	
		女子学生数	人	-	-																	
		社会人学生数	人	-	-																	
		留学生数	人	-	-																	
	入学者合計	入学定員(A)	人	-	-																	
		入学者数(B)	人	-	-																	
		女子学生数	人	-	-																	
		社会人学生数	人	-	-																	
		留学生数	人	-	-																	
		入学定員充足率（B/A）	倍	-	-																	
	収容定員等	収容定員(C)	人	-	-																	
		編入学定員	人	-	-																	
		在籍者数(D)	人	-	-																	
		編入学者数	人	-	-																	
		収容定員充足率（D/C）	倍	-	-																	
卒業後の状況	卒業者数	卒業者数	人	-	-																	
教員の状況	実務経験のある教員の参画	教員数	人	-	-																	
		授業科目の単位数	単位	-	-																	

大学名	龍谷大学

本事業対象となる学部等の個数	2

１.本事業対象となる学部等の状況

＜内訳＞

(1)

改組内容	学部の新設（当該大学が授与する学位の分野の変更を伴わないもの）
学部学科名	情報学部　情報学科（工学関係）

大区分	小区分	項目	単位	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度	R24年度
年度				R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度	R24年度
改組状況				選定		届出	開設															
	事業計画に定める定員	入学定員	人				130															
		編入学定員	人				3															
学生の入学・在籍状況	春季入学	入学定員	人	-	-																	
		入学者数	人	-	-																	
		女子学生数	人	-	-																	
		社会人学生数	人	-	-																	
		留学生数	人	-	-																	
	その他の学期	入学定員	人	-	-																	
		入学者数	人	-	-																	
		女子学生数	人	-	-																	
		社会人学生数	人	-	-																	
		留学生数	人	-	-																	
	入学者合計	入学定員(A)	人	-	-																	
		入学者数(B)	人	-	-																	
		女子学生数	人	-	-																	
		社会人学生数	人	-	-																	
		留学生数	人	-	-																	
		入学定員充足率（B/A）	倍	-	-																	
	収容定員等	収容定員(C)	人	-	-																	
		編入学定員	人	-	-																	
		在籍者数(D)	人	-	-																	
		編入学者数	人	-	-																	
		収容定員充足率（D/C）	倍	-	-																	
卒業後の状況	卒業者数	卒業者数	人	-	-																	
教員の状況	実務経験のある教員の参画	教員数	人	-	-																	
		授業科目の単位数	単位	-	-																	

１.本事業対象となる学部等の状況

<内訳>

大学名	龍谷大学

(2)

改組内容	学部の新設（当該大学が授与する学位の分野の変更を伴わないもの）
学部学科名	環境サステナビリティ学部　環境サステナビリティ学科（工学関係、経済学関係）

大区分	小区分	年度 / 改組状況 / 項目	単位	R6年度 選定	R7年度	R8年度 届出	R9年度 開設	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度	R24年度
	事業計画に定める定員	入学定員	人				130															
		編入学定員	人				2															
学生の入学・在籍状況	春季入学	入学定員	人	-	-																	
		入学者数	人	-	-																	
		女子学生数	人	-	-																	
		社会人学生数	人	-	-																	
		留学生数	人	-	-																	
	その他の学期	入学定員	人	-	-																	
		入学者数	人	-	-																	
		女子学生数	人	-	-																	
		社会人学生数	人	-	-																	
		留学生数	人	-	-																	
	入学者合計	入学定員(A)	人	-	-																	
		入学者数(B)	人	-	-																	
		女子学生数	人	-	-																	
		社会人学生数	人	-	-																	
		留学生数	人	-	-																	
		入学定員充足率（B/A）	倍	-	-																	
	収容定員等	収容定員(C)	人	-	-																	
		編入学定員	人	-	-																	
		在籍者数(D)	人	-	-																	
		編入学者数	人	-	-																	
		収容定員充足率（D/C）	倍	-	-																	
卒業後の状況	卒業者数	卒業者数	人	-	-																	
教員の状況	実務経験のある教員の参画	教員数	人	-	-																	
		授業科目の単位数	単位	-	-																	

大学名	龍谷大学

２.理･工･農学分野の学位を授与できる学部等（学士課程）の状況

大区分	小区分	項目	単位	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度	R24年度
学生の入学･在籍状況	春季入学	入学定員	人	1,066	1,051	1,051																
		入学者数	人	1,033	1,030	1,111																
		女子学生数	人	286	257	307																
		社会人学生数	人	0	0	0																
		留学生数	人	21	12	29																
	その他の学期	入学定員	人	0	0	0																
		入学者数	人	0	0	0																
		女子学生数	人	0	0	0																
		社会人学生数	人	0	0	0																
		留学生数	人	0	0	0																
	入学者合計	入学定員(A)	人	1,066	1,051	1,051																
		入学者数(B)	人	1,033	1,030	1,111																
		女子学生数	人	286	257	307																
		社会人学生数	人	0	0	0																
		留学生数	人	21	12	29																
		入学定員充足率（B/A）	倍	0.97	0.98	1.06																
	収容定員等	収容定員(C)	人	4,300	4,333	4,318																
		編入学定員	人	84	84	84																
		在籍者数(D)	人	4,204	4,277	4,350																
		編入学者数	人	6	9	5																
		収容定員充足率（D/C）	倍	0.98	0.99	1.01																
卒業後の状況	卒業者数	卒業者数	人	880	963																	
教員の状況	実務経験のある教員の参画	教員数	人	32	32	32																
		授業科目の単位数	単位	100	101	99																

大学名	龍谷大学

３.大学（学士課程）の状況

大区分	小区分	項目	単位	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度	R24年度
学生の入学･在籍状況	春季入学	入学定員	人	5,138	5,036	5,036																
		入学者数	人	5,151	5,336	5,277																
	その他の学期	入学定員	人	35	35	35																
		入学者数	人	8	2																	
	入学者合計	入学定員(A)	人	5,173	5,071	5,071																
		入学者数(B)	人	5,159	5,338	5,277																
		入学定員充足率（B/A)	倍	1.00	1.05	1.04																
	収容定員等	収容定員(C)	人	20,526	20,636	20,698																
		編入学定員	人	334	342	350																
		在籍者数(D)	人	20,798	21,444	21,578																
		編入学者数	人	58	75	69																
		収容定員充足率（D/C)	倍	1.01	1.04	1.04																

４.外部資金の状況（全学）

項目	単位	H30年度 申請−5年	R1年度 申請−4年	R2年度 申請−3年	R3年度 申請−2年	R4年度 申請−1年	R5年度 申請	R6年度 選定	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度
年度																				
改組状況																				
外部資金獲得額	千円	1,018,697	1,131,983	1,069,843	1,098,117	1,108,920	1,046.932	1,056,545	1,040,219											

項目	単位	
申請時点の外部資金獲得額平均 （過去5年間における各年度の外部資金獲得額	千円	1,092,293
本事業による助成金の額(F)	千円	2,569,999
フェーズ３の助成期間終了時までに達成する額 (E+F×2.5%)	千円	1,156,543

特記事項

３．大学（学士課程）の状況　その他の学期の入学定員35は、外国人留学生（４月入学）、帰国生徒特別（４月入学、９月入学）、中国引揚者等の子特別入試の募集人員を含みます。